

# 松川浦におけるアサリ浮遊幼生及び稚貝の発生状況

福島県水産試験場 相馬支場

## 1 部門名

水産業—その他—アサリ

## 2 担当者

佐藤太津真・成田薫・松本陽・藤田恒雄

## 3 要旨

モノクローナル抗体法を用いて松川浦におけるアサリ浮遊幼生の出現数を明らかにした。また、その結果を用いて浮遊幼生発生量と稚貝の着底量の関係について調査した。なお、調査は採水試料の分析を国立研究開発法人水産総合研究・教育機構及び東邦大学の協力を得て実施した。

- (1)浮遊幼生調査は、2013年には7月17日に最大19,020個体/m<sup>3</sup>であった。2014年には6月27日に最大800個体/m<sup>3</sup>と前年に比べ低水準であった。2015年は6月26日に3,500個体/m<sup>3</sup>、10月2日に3,725個体/m<sup>3</sup>と2回の出現ピークがみられた。これまで3年間の調査結果から、松川浦においてアサリの浮遊幼生密度が最高となるのは、水温が概ね20℃に達する時期であった(図1)。
- (2)浮遊幼生の発生量は年によりバラツキがあり、必ずしも浮遊幼生の発生量と翌年以降の稚貝密度(図2)とは一致していなかった。
- (3)2013年の大量発生及び震災に伴う休漁の影響により、近年成貝の生息密度が上昇し(図3)、成貝の生物ろ過の影響が大きい場所では新規着底が妨げられている可能性もあることから、適切な漁場管理を実施することで、資源の有効利用を図ることができると考えられる。

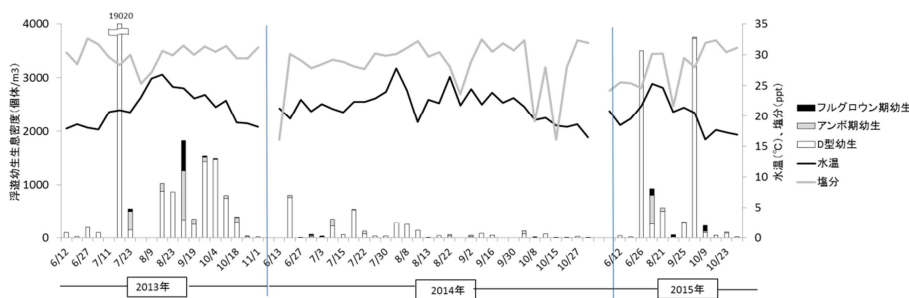


図1 浮遊幼生の発生状況(2013～2015年)

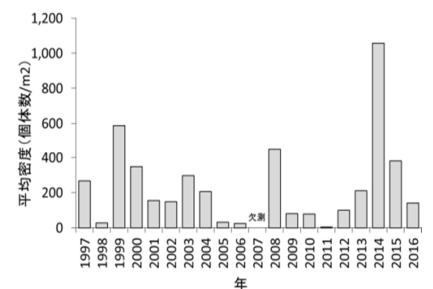


図2 稚貝の平均生息密度

## 4 成果を得た課題

- (1) 研究期間 平成23年度～28年度
- (2) 研究課題名 松川浦の増養殖の安定化に関する研究
- (3) 参考となる成果の区分 指導参考

## 5 主な参考文献・資料

- (1) 平成8年度～27年度福島県水産試験場事業概要報告書

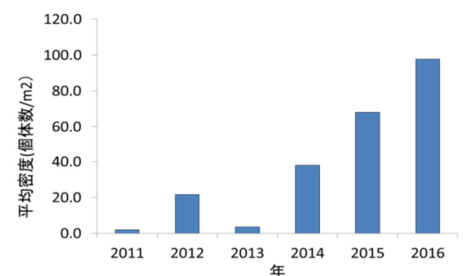


図3 成貝の平均生息密度